

市民の声

憧れのキャンパスライフ

白崎 春美

「おはようございます。」ドキドキしながら、教室入口近くの学生に声をかけたのがなつかしい。5年前の春だった。友人に市民開放プログラムを教えられたのがキッカケで、今までに受講した科目も11を数えた。

自分の知らない世界を学ぶ楽しさを知り、図書館通いも増えて、自分はこの科目に興味があったのかと再発見する事もある。

授業の進め方にも私には経験のないパソコンと液晶プロジェクターを用いる場合や、なつかしい黒板のみ、プリントのみいろいろで興味深い。印象に残っている授業としては、「日本アジア文化論」で、3人程でグループになり、1つの国の事を調べ、皆の前で発表するものだった。慣れない事で緊張もしたけど、楽しい思い出となっていて、今でもその国「ウズベキスタン」のニュース等に反応してしまう。

先生方も個性的で、きちんとあいさつをしてから始められる方、黙っていきなり書き始める先生、又、前日の家族のエピソード等から話す方、時々20分位遅れて来られる先生。最初ビックリしたが、これが大学だろうと思う様になった。

2年程前教室を出た所で、工学部の男子学生に「大学で勉強されてるのは、どうしてですか？」と話しかけられ、開放プログラムの説明をした。自分の子供よりずっと若いという気安さから「どうして大事な授業中、朝から居ねむりなんかしている人がいるの？」と聞いてみた。

「学生にもいろいろ事情があって勉強、バイト等で睡眠がとれない時もあるんですよ。」

「でも、大学に来ている目的は忘れないでね。」

余計な一言を言ってしまった。

最初は気になっていた女子学生の服装も、今はこういうファッションが流行なんだと納得し楽しんで眺めている。

これからも心身共に健康なうちはキャンパスライフをワクワクしながら楽しみたいし、もっと多くの人が参加して、この市民開放プログラムが続く事を願っている。